

2014 年度事業報告

「食べ物をたいせつにし、互いを支えあう社会をつくりたい」との思いを持って取り組んだ 2014 年度の事業報告を行います。

1. 食品提供サービス事業

- ① 社会福祉法人が運営する児童養護施設、母子寮、障がい者・児支援施設、特別養護老人ホームなどへの配送が多くありましたが、活動を重ねていくとDVシェルター、ホームレス支援団体、外国人支援団体、刑余者支援団体、小規模作業所、キリスト教系施設など、小規模で公的な支援を受けることのできない団体・施設から、口コミやホームページ、TV 放映をみての問い合わせで、食品提供が実現していきました。
- ② 6 月より和泉市にオープンをした、大型量販店からの食品引き取り開始にあわせ希望調査をおこなった結果、20 施設・団体からの希望があり食品の配送をおこないました。
- ③ 結果、食材提供サービス事業は 83 団体(施設)に行うこととなりました。

2. 余剰食材回収サービス事業

- ① 余剰食材回収サービス事業は、54 の団体・個人から、37 トンの食品の提供をうけました。
6 月からは和泉市にオープンをした大型量販店より、パン・果物・野菜の引き取りを開始し、22 トンの提供を受け、あわせて 59 トンの食品の提供をうけました。
1 kgあたり 600 円の評価額とすると 35,400,000 円分の食品をとどけたこととなります。
2 年目は、企業や個人からの定期的な食品の提供が増えました。特に TV 放映を見た個人の方からの食品提供が前年度に比べ飛躍的に増加しました。また引き続き友好団体であるセカンドハーベスト名古屋やフードバンク関西から食品のシェアをうけたことによって、結果上記の量と金額の活動を行うことができました。
- ② 大阪に本社を置く食品製造会社へパンフレットなどの説明文書、企業訪問依頼の送付をおこない、食品の安定的な提供につなげる取り組みをおこないました。

3. 会員とボランティア

- ① 2014年度の会員は、正会員14名でした。賛助会員1名でした。
- ② 2014年度のボランティア登録は15名でした。
- ③ 2014年1月から2015年1月実施のボランティア体験には延べ275名の参加がありました。
- ④ 2014年12月20日・21日に部落解放第46回全国高校生集会・第58回全国青年集会の「食品ロスと社会福祉を考えるフードバンク活動から学ぶ」をテーマにしたフィールドワークの受け入れをおこないました。延べ58名の高校生・青年の参加がありました。
- ⑤ 2015年1月22日に、和歌山県橋本市にある「きのくに国際高等専修学校」のボランティア体験の受け入れをおこない、学生15名・教員2名の参加がありました。

4. 広報活動

- ① 2013年4月にホームページを立ち上げ、引き続き更新作業に努めました。また2014年11月にフェイスブックを立ち上げました。
個人からの提供、問題意識を持つ社員が上司を説得して食品提供が実現できた企業などもあり、フードバンク活動に高い関心をもつ人たちの存在を知ることができました。
- ② 『ふーどばんく OSAKA 通信』第2号・第3号を発行し、関係団体や施設・企業などに配布しました。
- ③ 大学生のフードバンクレポートや卒業論文作成に協力しました。
- ④ 2014年4月に実施したボランティア体験デーへ毎日放送「VOICE」の取材を受けました。
5月6日に放映され、6月26日には同系列「ちちんぷいぷい」でも放映されました。
また、3月21日にはよみうりテレビ「すまたん」の取材を受けました。
放送を見た企業や個人からの食品提供の連絡や、ボランティア活動への参加問い合わせなどが飛躍的に増加しました。
- ⑤ 2014年5月28日に「ふーどばんく OSAKA 設立1周年記念行事」をおこないました。
記念行事では、ふーどばんく OSAKA の活動報告・他のフードバンク活動団体・食品提供先施設・団体・食品提供企業などからも報告いただき、延べ240名の参加がありました。

- ⑥ 11 月には AIAI フェスタへ、3 度目の参加をおこないました。AIAI フェスタへは食品提供先団体からの参加もしていただきました。

5. その他

- ① 認定 NPO 法人の認可申請を 12 月に行いました。(2015 年 4 月 22 日に認可されました)
- ② 他のフードバンク団体との交流を行いました。食品のシェアだけでなく、互いのイベントへの参加、情報交換会を実施しました。
- ② セカンドハーベストジャパン主催の第 7 回フードバンクシンポジウムに参加し、全国のフードバンク団体ではそれぞれの成り立ちや取り組み方が多様であることを学びました。
- ② 事務局体制の充実に向け、有償ボランティアの活用やボランティアスタッフの確保に努めました。